



TITLE:

質疑應答

AUTHOR(S):

CITATION:

質疑應答. 地球 1930, 13(2): 159-160

ISSUE DATE:

1930-02-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183712>

RIGHT:

ヘラツト州はアフガニスタンの西部及西北部をしめ、北部は露領トルキスタン、西は波斯のホラサン及シスタン州に接し、域内にはハリルド、及モルガブ兩水がながれて平野が廣い。

州内人口百五十萬、ヘラツト市を中心とせるハリルド河流域に集中し農牧を營む、農業は河岸にひらけ堰を築き溝を通じ、集約の田圃が見られる、米、麥、裸麥、棉、阿片、豌豆、マージ、アーダス等を栽培する。牧畜は遊牧民の手に行はれて、アフガン族及タージキ族の手にある、羊、駱駝を山麓の草原地帯に放牧し、暗黒色の天幕から世俗の外に烟を上げてゐる、是等をクーチと稱し羊毛、毛皮、バター、羊油等を主産物としてゐる。又山岳地方では狐貂等の獸皮がとれる。

ヘラツト市は政治交通商業の中心で、市の半はバザーから成立する、人口三萬に近い、只今では自動車でカンバートルからニューチャマンに出で、印度西北國境鐵道に連絡する、又北は自動車でクシキをへてロシヤの鐵道に通ずる、猶西は波斯へ自動車を通じ、東隊商がトルキスタンにゆく、對印對露の貿易が主であるが、晒白木綿は印度品及日本品、キヤリコは全部日本品がうれるといふ、紅茶を飲まないで、全部綠茶をのむ、上海から輸入される量が多い、日本からの茶飲茶碗、アルミニウム製器、琺瑯鐵器などが輸入される。

○朝鮮國境圖們線開通

昭和二年六月起工した圖們線鐵道は、三工區完成雄基、新阿山間四〇、三哩につき、十一月十六日から營業を開始する事となつた。

この新線に沿ふ平野及び豆滿江を距て、支那琿春地方に至る農産物、同地方の木材、慶興郡に亘る石炭がこの線によつて運出さるゝのである。從來は交通不便の爲に、僅に自動車や牛車によるの外なく、採算立たざる爲に豊富なる物資も開拓せられなかつたが、本線の開通によつて産物も頗る増加し殊に將來吉會線開通の曉は、滿蒙の物資がこの線によつて雄基港に吞吐されるので、朝鮮の産業と雄基港の發展に著しき影響を及ぼすであらう。

尙本線の各驛は雄基、雄尙、力龍坪、供儀、四會、青鶴洞阿吾地、松鶴、新阿山であつて傍線を附せるものゝ外は皆簡易驛である。

質疑應答

【問】 コーカサス油田

埼玉 Y 生

【答】 高加索の油田とは、(一)アプシエロンスキー半島及其附近(二)テールスキー地方裏海に沿ひてダゲスタン領に連るもの(三)クバンスキー地方の三油田地を總稱す。

北高加索ではクバンスコ・チエルノモルスカヤ州に油田があつて、アナバ及テムリユグ附近の海岸より、始まり東南に向てアシエヒ河の左岸に延び、マイコアスキー、カルージスキー、イリスキー、グルイムスキーの諸區が主要坑區である

マイコブスキー地方で最も結果のよいのはシルワノホフチヤンスキー小區で油層は厚さ十三米、幅百七十米、油井の深さ三百二十乃至五百三十米、月採油四萬千噸に達する。カルーシスキー區では油田地の面積三百二十八ヘクタ爾重油がでるイリスキー區は輕油を出すが調査不十分である、クイルムスコ・クダンスキー區は油田地五百四十六ヘクタ爾と稱せらる、いづれも其產出は附近地方に於て消費されてゐるに過ぎない。(二)のアルスカヤ油田の地表に徴候をしめすのはウラジカフカスの最高點に初まり、東に向つて裏海に及び、更に海岸に沿ふて進むこゝに舊グロブヌイ油田がある、グロブヌイ市の西北十三軒に位し、油層十六、含油地の幅一軒、長十六軒、比重〇・九原油はバクーに比してベンザン九倍多く、石油は二倍少い、手を觸れない區域が廣い、埋藏量五千五百五十萬噸、一九一六年迄に千七百萬トンを探取した。

新グロブヌイ油田は前者の東南四キロ、比重〇・八五、埋藏量四千六百萬噸その内一九一七年迄に千六百萬噸を探取したのである。こゝは一九一〇年始めて名が出た新しい油田である。

最後に有名なバクー油田はアプシエロン半島にある。戦前には、バラハヌイ、サプンチ、ラマヌイ、ビビエイバト、スラハヌイ、ビナガツイ、フルダラン、アタシカ、アータ、アルテマ島の十區にわかれて稼行されてゐた外に非戸掘式の土地が多かつた、半島の長さ約六十九軒、廣二十三軒、

全半島にわたつて採油せられ、重油は主として砂地にある、比重〇・八六—〇・九である、バクー市より東北十三軒の地にバラハヌイ區の油田と稱するものがある、一九〇一年の油井一七八六個、一九一五年の油井二七二九個、一九二〇年迄の三十八年間に一億八千萬噸を探取した、バクーの南二軒にビビエバト灣の海底下に油田があつて、油井二百二十、スラハヌイはバクーから二十軒、一九〇七年に開かれ、一九一五年には四十五の井から百萬噸をとつた、ビナガツイはバクーの北八軒にあり、アルテマ島は半島の東端で、バクーから四十三軒を距つ、以上の六坑區は舊バクー油田に屬する、最少埋藏量七億四千萬噸、毎年千四百八十萬トンを探油し得る現在右の六坑區が前記十鐵區になり、一九二〇年以後ソグアイエツトの國有となつた、一九二二年舊バザル廣場に第一ソグアイエツト油田を開き、ビビエバト灣の埋立地にイリイ油田を設け最新式の設備を施した、バクー全體で北樺太油田の、凡五十倍の石油產額がある。